

海人の新たなチャレンジ、伊江島おこしでふるさとづくり (平成25年度認定)



伊江島は沖縄県北部の本部半島から北西約9kmに位置する島である。漁業が盛んな島で、ソデイカや群魚等の水揚げが多く、また養殖業も盛んである。

伊江漁業協同組合は昭和5年に発足した県内でも古い漁協である。漁協ではソデイカやモズク等を利用した加工品の開発に力を注いでおり、平成20年度に日本で一番若い組合長が選出され、さらに新商品の開発や販売促進が図られている。平成19年には「イカスミぎょうざ 墨ちゃん」、平成20年には「伊江島おっかー自慢のイカ墨じゅーしい」、平成24年には「モズクゼリー」が商品化され量販店やアンテナショップ等で販売されている。特に「イカ墨じゅーしい」は毎年5万パック前後を売り上げており、「イカスミぎょうざ」は海外での発売を広げている。また、加工品の売上の一部を伊江村教育活動資金の費用として絵画教室を開催している。また環境保護活動として、タマンの放流体験を行うなど、生産を通じて地域にも貢献している。更に、漁協の観光部会が修学旅行生等を対象とした観光漁業にも力を入れており、ハーリー体験や伝統の追込み漁体験など、例年1000人程の受け入れ実績となっている。

このことから、地域と一体となった生産基盤の保全活動により生産の活力が認められる団体として生産部門に認定された。



イカスミぎょうざ墨ちゃん



イカ墨じゅーしい



モズクゼリー



絵画教室



タマン放流



追い込み漁体験